

単元名 まちたんけん

配当時間 9時間

- 単元の目標 (1) 自分の町を探検し、調べる活動の中で、町の特徴やよさ、そこに暮らしたり働いたりする人々の様子などに気付くことができる。
- (2) 友達と一緒に町探検へ行き、発見したことや体験したことなどを絵や文にまとめて、周りの人々に伝えることができる。
- (3) 自分たちが住む町を、友達と協力して調べたり、探検したりする活動を通して、自分たちの町に対して親しみや愛着をもとうとする。

標準的な展開例

02060101_001

【準備等】 引率ボランティアや探検場所への依頼、拡大校区地図（導入や今後の活動で使う）、道案内が書かれた校区地図（探検に行く際、児童や付き添いの保護者へ配付するもの）、付箋（黄色など、2回目と色を変える）、記録カード（まちたんけん計画カード、たんけんカード）探検バッグ、タブレット端末

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 自分の生活している地域の中で、お気に入りの場所や興味のある場所、不思議に思っている場所などを話し合い、単元の見通しをもつ。</p> <p>★町の「すてき」や「ふしぎ」を伝え合おう</p> <p>○自分たちが住んでいる町について、知っていることを付箋に書き、紹介し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いいにおいのするパン屋さんがあります。 ・道路に花の絵がついた丸いものがあります。 <p>○友達の紹介した「すてき」や「ふしぎ」を聞いて、見たいことや知りたいことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できたてのパンがどんなにおいがあるのか行ってみたくなくなりました。 <p>2～3 探検に行きたい場所を伝え合い、グループに分かれて探検の計画を立てる。</p> <p>★町のすてきやふしぎを見付けるために、探検計画を立てよう</p> <p>○探検に行きたい場所を伝え合い、グループに分かれる。</p> <p>○探検に行く計画を立て、計画カードを書く。</p> <p>《探検グループ名》 青コース探検隊</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第4時では、校区内へ探検に行く活動が組み込まれている。児童の安全確保のため、便り等を通して保護者などの協力を依頼しておく ・児童の探検が予想される場所や施設については、安全面を考慮したり、訪問できるか問い合わせておく。探検が可能かどうかを事前に調べておく。また、前年度の2年生が探検に行った場所も調べておくとうい。 ・児童に出会わせたい人や繰り返し関わらせたい場所などは、あらかじめ写真などを用意し児童の興味を喚起する。 ・教科書P. 2～3「まちのきせつ（春）」を導入時の動機付けにしてもよい。 ・学校を中心とした校区地図を用意する。その上から児童が知っているまちの「すてき」や「ふしぎ」を書いた付箋を貼らせる。 ・地図についてまだ知識がないため、児童の家の場所に名前を書いたシールを貼ったり、通学団名を示したりしてもよい。位置関係を捉えさせ、3年生からの社会科の学習へ接続するようにしたい。 ・教科書P. 6～7の写真を参考にして、自分たちの町の「すてき」や「ふしぎ」を考えさせる。 ・いいにおい、不思議な形、気になる音など、様々な視点で考えられるようにしたい。 ・「すてき」「ふしぎ」という言葉が難しい場合は、「おすすめ」「じまん」など児童にとって身近な言葉にし、自分が住む町について知っている情報を引き出すようにする。 ・地域の場所、もの、人に注目させ、自分のお気に入りの場所や知っていることなど、「自分と地域」や「自分と人」との関わりを紹介させるようにさせる。 ・探検前に学級で話し合った「すてき」や「ふしぎ」が貼られた校区地図を見せ、次時からの探検によって町の「ふしぎ」を見付けたいという意欲をもたせるようにする。また、学級みんなで手分けして町の「すてき」や「ふしぎ」を見付けようと提案し、単元の終末で行う町の「すてき」・「ふしぎ」発表へとつなげたい。 ・最初の探検であるため、児童一人一人のめあてや目的意識が明確でなかったり、漠然としていたりしてもよい。「行きたい」という思いを認め、探検の計画を立てさせる。 ・児童の探検したい場所や知りたい物を考慮して、4～6人程度のグループを編成する。 ・探検場所には、事前に活動の趣旨や到着予定時刻などを知らせ、協力を依頼しておく。 ・保護者の協力を得る際には、学習のねらいと

《日時》

○月○日

出発する時刻 ○時

帰ってくる時刻 ○時

《探検に行く場所と順番》

学校→公園→パン屋→児童館→学校

《役割》

班長、副班長、写真係、時計係、地図係

《持っていく物》

安全帽子、筆記用具、探検バッグ、探検メモ用紙、
時計、タブレット端末、防犯ブザー、水筒

《調べること・聞きたいこと》

- ・公園・・・どんな遊具があるか知りたい。
- ・パン屋・・・どんなにおいかわりたい。
- ・児童館・・・児童館に来ている人と話したい。

《約束》

- ・帰る時刻を守る。
- ・交通ルールを守る。
- ・町の人に挨拶をする。

○挨拶やインタビューの練習をする。

- ・「こんにちは。○○小学校の○○です。お話してもよろしいですか。生活科の学習で、町探検をしています。（質問）ありがとうございました。」

4～6 探検に出かけ、地域の場所やもの、人と関わりながら町の「すてき」や「ふしぎ」を見付ける。

★町の「すてき」探検に行こう

○町探検のめあてを確認する。

- ・町の「すてき」や「ふしぎ」（場所、物、人）を見付ける。
- ・諸感覚（匂い、音など）を使って探す。
- ・目的地以外でも、町の「ふしぎ」を探す。
- ・不思議に思ったり、もっと聞きたいことは、町の人にインタビューする。

○探検の約束を確認する。

- ・探検のルールやマナー
- ・緊急時の対応
- ・帰着時刻等

○町探検に出かけ、町の「すてき」や「ふしぎ」を探したり、インタビューしたりする。

7～8 探検で見付けた「すてき」や「ふしぎ」をグループごとで振り返り、町の「すてき」発表の準備をし、発表する

★町の「すてき」や「ふしぎ」をまとめよう

○見付けた「すてき」や「ふしぎ」をグループで振り返る

- ・パン屋さんは、たくさん種類があったね。
- ・朝からたくさんあったけど、お店の人は何時から作っているんだろう。

○見付けた「すてき」や「ふしぎ」を発見カードに書く。

- ・パンやさんのふしぎなにおいは、こむぎこがやけるにおいでした。さとうやクリームのおいもまざっていると教えてもらいました。パン作りでは、どことなくふうをしているのかな。

○町の「すてき」発表の練習をする。

役割分担をきちんと伝えておく。

- ・探検先が多くなると、時間が足りなくなったり、関わりが薄くなったりしてしまう。探検の時間や移動距離などを考え、ある程度絞らせる。
- ・危険な箇所や、注意の必要な場所を地図で確認し、探検の順番や通る道を決める際の参考にさせる。
- ・方面別の校区地図を計画カードの裏に印刷しておき、歩くコースを記入させるようにする

- ・「におい」「色」「音」など諸感覚を使って見るだけでなく、次時へと学習が広がるように、「場所」「物」「人」の3つの視点を与え、探検するよう意識させる。
- ・店や公共施設を探検するときは、客や利用者の迷惑にならないことを繰り返し指導しておく。
- ・探検コースの途中にあるトイレや子ども110番の場所を確認しておく。
- ・緊急時に学校と連絡を取る方法を、繰り返し指導しておく。
- ・「安全に探検する」「人に迷惑をかけない」という目的を明示し、ルールやマナーを話し合わせる。

【評】探検計画を立てる活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。

- ・インタビューする際は、教科書P.117「ワンポイントアドバイス」を参考にして指導する
- ・不思議に思ったことや、もっと知りたくなったことは、地域の人に質問するように伝える

- ・教科書P.10～11「たくさん見付けたいね」を参考にして、諸感覚を使って自分たちの地域の「すてき」や「ふしぎ」を探す視点も与える。
- ・探検で見付けたことや気付いたことを、その場で発見カードにメモしたり、タブレット端末のカメラを使って撮影したりさせる。
- ・町の人や店の写真を撮る際には、必ず許可をもらうように指導する。
- ・国語科の指導と関連させ、メモの取り方を練習させておく。

- ・振り返る手助けとして、タブレット端末などのICT機器を使ってグループ毎に共有させたりするとよい。

- ・新たに見付けた町の「すてき」や「ふしぎ」があれば、付箋に書いて校区地図に付け足していく。
- ・発見カードには、探検した場所の様子や発見したもの、出会った人のこと、聞いたことなどを書くよう指導する。

【評】町探検をして気付いたことをまとめる活動を通して「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。

- ・発表する方法については、国語科と関連させたり、教科書P.123「はっぴょうする」を参考にしたりするとよいが、次単元「あの人に

- 見付けた町の「すてき」を紹介し合う。
 - ・お茶やさんには、いろいろなお茶がありました。
 - ・はしごのついたしょうぼうしょの車は、はしご車というそうです。
- 9 町探検をして、気付いたことや感じたことを発表する。
 - ★町には他にどんな「ふしぎ」があるか話し合おう
 - 気付いたことや感想を話し合い、単元のまとめとする。
 - ・〇〇町には、まだ知らないふしぎがたくさんあることが分かりました。

会いたいな」の学習で、町の素敵を発表する活動があるため、ここでは作品を作るなどの大がかりな発表とはせず、写真を電子黒板に映すなどした発表に留めてもよい。

【評】見付けた町の「すてき」「ふしぎ」を発表する活動を通して「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

- ・教科書P.14～15「まちのくふう」を基に、様々な手助けとなる標識について紹介し、標識の意味だけでなく、何のためにあるかも考えさせたい。
- ・必要に応じて、教科書P.16～17「ものしりノート」を活用する。
- ・町のふしぎが分かることで、地域に対する親しみや愛着をもたせたい。
- ・次単元「あの人に会いたいな」につながるよう、まだ知らないことがある、もっと話を聞きたいと思わせるような終末としたい。

【 備 考 】

- ・校外へ探検に行く際、引率ボランティアを募ることや、店や施設への依頼などの準備が必要であるため、「わたしたちの野さいばたけ」と単元を入れ替えたり、同時期に行ったりとするなど、学校ごとでカリキュラムを編成することは可能である。
- ・2年生では町探検を2回実施する。1回目の今回は、主として場所やものとの関わりを重視し、秋の2回目の探検では、人との関わりを重視する。